

紋切りは万華鏡(配布用)

青森・野呂茂樹

【紋切りと万華鏡】

何度か折り重ねた紙を切って開くと、きれいな模様の切り絵ができる「紋切り遊び」は江戸時代から親しまれてきました。

絵や物体を2枚の鏡に挟むとききれいな模様が見えます。鏡の開き具合で模様は異なります。これが万華鏡の原理です。



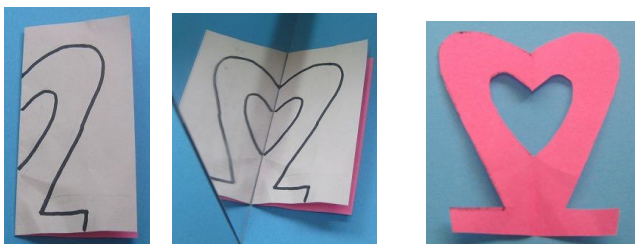
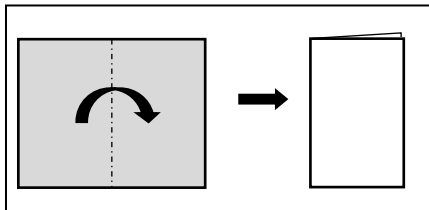
紙を折り重ねたものに、模様を描き鏡で挟んだとき見える模様と、模様に沿って切り・広げた模様とは同じ図形です。

折り重ねた折り紙に模様を描き、鏡に挟んでカットし広げたとき模様を予想／確認しながら、出来栄を楽しみましょう。

折り紙を何回も折り重ねると、厚さのため形が崩れることやハサミでの切断が小さい子どもでは難しくなります。

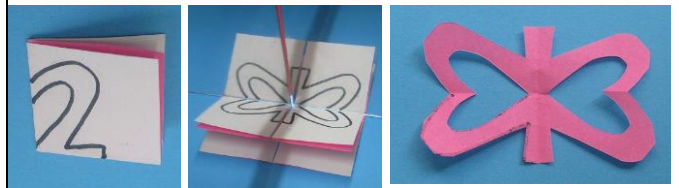
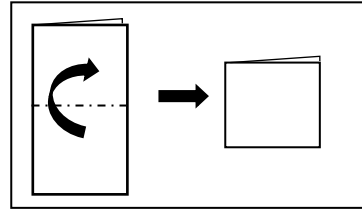
そこで、折り重ねた枚数を 2・4・8 枚とした作例を紹介します。折るときは、模様を描く都合から、裏の白い面が見えるように折ります。

【2つ折り：1回折り】

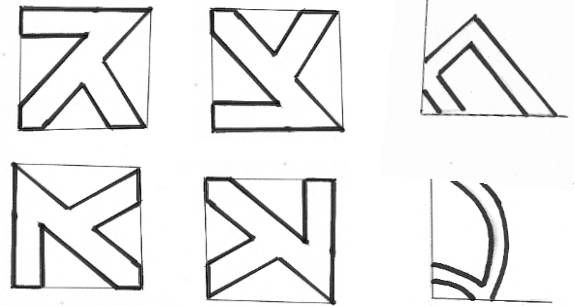


「2」を書き、鏡で観察し、実際ハサミでカットして広げてみましょう。

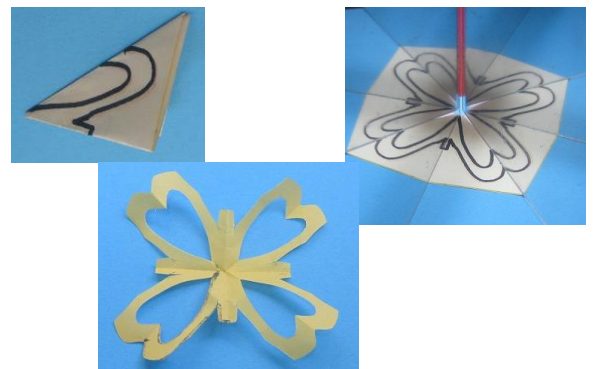
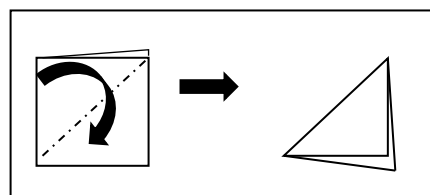
【4つ折り：2回折り】

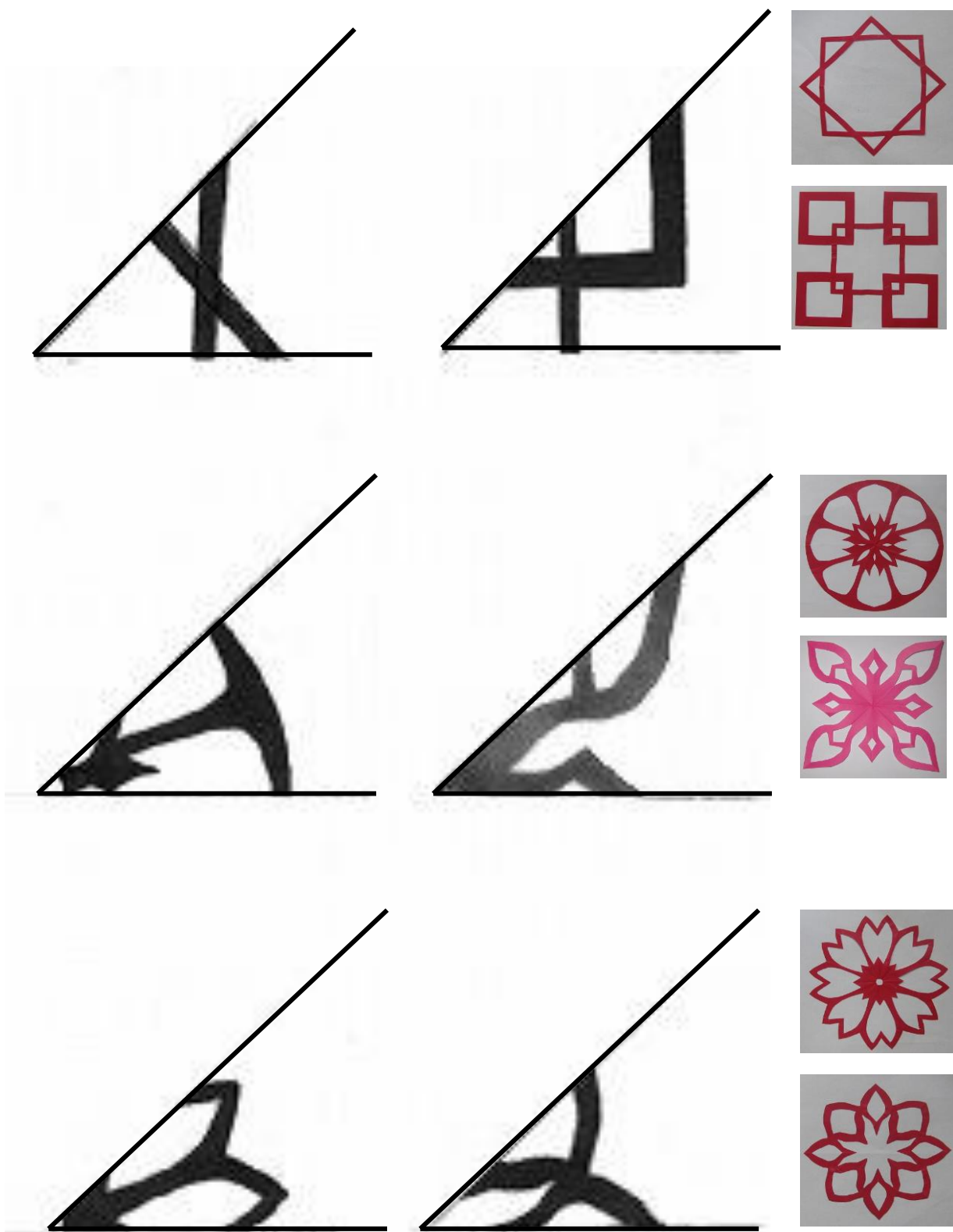


* どんな模様になるでしょう。



【8つ折り：3回折り】





【参考文献/HP】

- ・「切り紙」板倉聖宣～「なぞとき物語」（仮説社）
- ・「楽しい切り紙の世界」松崎重広～「ものづくりハンドブック5」（仮説社）
- ・「やさしい切り紙」矢口加奈子（池田書店）
- ・WEB サイト「紋切型の奥義」